

平成25年度

第4回 鶴岡地域審議会
会議録（概要）

期日：平成25年11月25日（月）

場所：鶴岡市役所 大会議室

平成25年度 第4回鶴岡地域審議会会議録（概要）

○ 日 時 平成25年11月25日（月） 午後1時30分～

○ 場 所 鶴岡市役所 6階 大会議室

○ 出席委員（五十音順）

稲泉眞彦、奥山春名、後藤輝夫、今野毅、今間智寛、齋藤春子、菅原衛、菅隆、
竹内峰子、竹田理英、茅野進、土岐純一、早坂剛、本間仁一、丸山絢子、
三浦惇、山田登

○ 欠席委員（五十音順）なし

伊藤俊昭、田村勇次、横山真二

○ 市側出席職員

企画部次長（兼）企画調整課長 富樫泰、企画調整課主査 佐藤豊、
地域振興課長 阿部真一、地域振興課主査 三浦裕美、地域振興課専門員 前田哲佳、
地域振興課主任 小野寺善紀、地域振興課主事 富樫智彦

1 開 会 （午後1時30分）

2 あいさつ

3 説 明

（1）鶴岡市総合計画後期基本計画の策定について

4 協 議

（1）鶴岡地域審議会の提言（案）について

（2）その他

5 そ の 他

6 閉 会

- 1 開 会 (午後1時30分) 進行：三浦裕美地域振興課主査
- 2 あいさつ (早坂剛会長)
- 3 説 明 (議長：早坂剛会長)

(1) 鶴岡市総合計画後期基本計画の策定について(説明：佐藤豊企画調整課主査)

○ 早坂剛会長 ただ今説明を受けまして、何かご質問などございませんか。

○ 三浦惇委員 今回は具体的な内容の説明がなかったので分かりませんが、廃棄物処理施設の関係や新たにエネルギー問題が付け加えられております。総合計画が上位計画だと思えますが、法律や条例に基づく環境基本計画や廃棄物処理の計画、それに伴っての環境や廃棄物の審議会が設置されているので、この総合計画とのすり合わせをどのようにされるのかお聞きしたいと思います。

○ 富樫泰企画調整課長 市には環境に限らずいろいろな計画があり、それらの計画とどう整合性を取っていくかということですが、総合計画は市政を進めていく上で最上位計画に位置付けております。冊子をお開きいただくと総合計画の基本構想があります。平成21年に議決をいただいておりますので、そこが一番の上位計画になります。今回見直しをしている部分は、毎年予算づけを行っていく上での1つの基本的な考え方で、基本構想を受けた基本計画になります。どのような事業を重点的に実施していくかを明らかにしていく5年間の計画です。いろいろな審議会が毎年開かれています、密接に連携して記述していくべきものだと存じておりますし、さらに基本計画の下に毎年皆さんにお示している3か年の実施計画がございます。大きな基本構想、このたび見直しをする基本計画、そして毎年見直しを行っている実施計画といった3本立ての計画の中で、いろいろな他の会議や審議会など、いろいろな場での市民の皆様のご意見との整合性を保ちながら、進められるよう努力しているところですので、ご理解いただければありがたいと存じます。

○ 三浦惇委員 確かに総合計画は議決を得た最高の上位計画だと思いますが、先ほど申し上げたとおり、法律条例に基づいての審議会での議論をして、最終的にまとめた計画があります。環境や廃棄物の審議会は専門家の方が集まっていますから、その辺も十分に聞いて形式的な審議会になってもいけないので、平行しながら進めて総合計画に生かす道が必要だと思います。新たな廃棄物処理施設の整備ということで、延長になった合併特例債の活用や、リサイクル問題を含めてエネルギー問題は市民に対する大きな影響力を持ちます。

○ 富樫泰企画調整課長 新しいごみ焼却処理施設のことでございますが、現段階では、この新しい基本計画の中へ盛り込んで記述をする方向で議論は進められております。ただどの程度までの記述になるのかは、財政計画などと関係してきますので今後の課題になるかと思えます。それから環境などの専門的な審議会や委員会などがありますが、整合性をもって矛盾しないよう、全体的に調整を図るということでの企画調整課がございますので、市の政策がまちまちにならないよう一生懸命頑張ってまいりますので、よろしく願いいたします。

○ 竹田理英委員 ただ今盛り込んでいくというお話がございました。今後、毎年のように

優先順位が変わるということもあるが、今の段階では右側の部分については盛り込んでいきたいということで、現時点では優先順位ははっきりしていないけれども、これから力を入れていきたい。予算も加味ふまえてと捉えていいということでしょうか。

○ 富樫泰企画調整課長 新しい焼却施設を造っていく方向の記述を、この総合計画の基本計画の中に盛り込むということで、市民生活専門委員会に提示し、次に企画専門委員会、そして全体的な総合計画審議会にも提示をすることで進めております。途中の段階でまだ早いのではないかとと言われる可能性もありますが、これは必要な施設だと思って変えていきたいというのが私どもの考えです。いつ着工するか、場所、処理規模、余熱はどうするのかといった、細かい点やたくさんの課題が出てくると存じますが、今の全体的な基本計画の中には書き込めないところですので、今後全体的にやろうと固まりましたら、担当部局で頑張っ

て仕事をしていただくということになります。

○ 齋藤春子委員 地域の考え方について、資料1に地域振興の方針の中に鶴岡、藤島と6つ記載されていますが、資料2の地域振興の方針に基づく政策には鶴岡はなく、藤島を筆頭に5つの地域が記載してあり資料4に詳しく出ています。そこで、ここに集まっている私たちは鶴岡地域のことでなく、全体の基本方針について皆さんと審議をすることを考えていいかと思いますが、私は周りだけが地域ではなくて鶴岡も1つの地域として考えて、私たちのこの審議会があるのだと思ったのですが、そうではないのでしょうか。今ここに集まっている鶴岡の人だけが、基本方針から今後の方針についての審議しているのか、私たちの鶴岡地域だけがないとそんな考えを持つのですが、改めてお聞きします。

○ 早坂剛会長 鶴岡地域がないのはどうしてかということですね。

○ 齋藤春子委員 鶴岡がないこととその理由についてです。ここに集まっている私たちの役割がどうも分かりづらいのです。今まで話をしてきたことは、鶴岡全体の政策に対して、コミュニティのあり方や地域の振興などの話をしてきたと思います。その考えが鶴岡は別なのかこの審議会は地域でやっている地域の問題とは地域としては別なのか。そのことをお聞きしたかったのです。そうしないと今まで話し合ったこの提言は、全体に関わる問題です。他の地域とは違うという考え方だと思います。

○ 富樫泰企画調整課長 なぜ鶴岡がないのかということですが、基本構想にはしっかり鶴岡というのは盛り込んで議決をしており、鶴岡市の鶴岡地域の方向性についてはきちんと定めさせていただき、その方向にのっとってまちづくりを全体的に進めているということです。さらに下の計画の基本計画について私どもが検討しているところ、先ほど申し上げましたが、今後5年間何を重点化していくかと言う時に、鶴岡も厳しいのですが、旧町村部の落ち込みがデータの的にも少し異質な落ち込み方があるのではないかと考えております。農林漁業を基盤にして、大変厳しい産業環境ながら、少子高齢化が非常に進んでいる。しかしながら、そこにはものすごい歴史のある芸術文化やコミュニティもあって、どのように守っていくのか。このようなことについては、鶴岡と同列に並べて地域振興の方策を考えていこうというのはどうなのかと考えたしだいです。

例えば、東京振興計画と山形振興計画といった国から2つの計画が出された時に、東京振興計画ばかりが進んで、田舎の方はどうも大切にされていないのではという心配があつて、いろいろな局面で国に対して地方の実情を訴えていかないと、周辺部が落ち込むという場合があるのではないかとということがあります。ここはある意味、積極的に鶴岡と違うということで旧町村部を書かせていただいているところです。今後5年間でこんなところを重点的に進めていきたい。それを考える組織もあるわけです。藤島地域庁舎、羽黒地域庁舎と各地域庁舎にはしっかりした事務当局責任者がおり、構想を練って予算を管理し事務を執行しております。鶴岡には鶴岡地域庁舎という組織がないのは、おそらく作っても有名無実になる恐れが大きいからではないかと考えます。

鶴岡地域でみると、中心商店街をどうするのか。あるいは慶應先端研はどうしていくのかなど、いろいろな重要政策がありますが、ほとんどが市の施策と重複することになるかと存じます。せつかく文書に書いて実施しますと言っても、同じ事が鶴岡市と鶴岡地域に書いてあったり、逆に違ったことが書いてあったりすると、責任をもって政策を進めるのは誰なのかということにもなりますので、私どもは鶴岡の地域振興計画は記述しないことにしましたが、総合計画の基本構想にはきちんと位置づけてありますので、ルネサンス宣言などに基づき、全体的にいいまちづくりと進めて、中心部地域としての責任を果たしていくのが妥当だという結論に至ったところでございます。一緒に書いてあればバランスがとれて良いかと思いますが、このようなことから敢えて示さないことといたしました。

○ 齋藤春子委員 ここに集まっている方々が審議する内容は、鶴岡市全体の振興だとすると、私は地域として藤島や羽黒といった別枠として考えたくないのです。別にすることが逆に埋没する一つになるのではないかと思います。地域の婦人会長の集まりで、支所長には何の権限もないし、困ったことがあつても訴える場所がないなど、いろいろ聞かされました。鶴岡としても特色があると思うのです。それを別枠ではなくどこの地域も同じと考えて、その特色を活かす方法を考えれば、地域が埋没しないと思います。組織の中で庁舎とか本所ではなく、考え方としては同列であるべきだと思いますので、中身をみても特色が出ています。例えばコミュニティの問題にしても、それぞれの特色での考えからだと思います。この集まったメンバーが鶴岡全体の地域振興の、これからの5年間の計画を具体的に考える。鶴岡地域なのか鶴岡市として考えるのかが分かればいいのです。

○ 富樫泰企画調整課長 ただ今のご意見は全くその通りだと思います。地域ごとに考えなければならぬというのは一時的な話で、将来にはオール鶴岡で一体の市になり溶け込んで、どこの地域庁舎とか関係なくやっていく。ただもう少し時間がかかるだろうということで、当面5年間ですが、合併特例債など合併に係わるいろいろな事業がありますし、そういう予算を実行していくという意味では、5地域というのは大切に作る時期だということでご理解いただければと存じます。この審議会では、先ほど申し上げましたが、鶴岡地域である旧鶴岡市のことを考えることが鶴岡全体の事を考えることにもなりますし、お気になさらずにどんどんご意見をいっていただいて結構でございます。なお、藤島地域、羽黒地域といった旧町村地域には、各地域の振興ビジョンのテーマもありますので、それについて議論していただくことは当然ですが、朝日地域の方が鶴岡のことを考えなくていいということはありません。合併してどうだったのか。全市のことについて地域として審議していくということは、

どこの審議会も全く同様でございます。

○ **早坂剛会長** 今の話で確認ですが、今日この鶴岡地域審議会の提案ということで、提言をまとめようとしていますが、12月16日に鶴岡と各旧市町村、各地域の会長が一同に集まって市長に提出しますが、それを受け入れるのは鶴岡市と言いますか、総合計画で受けていただけるのですか。どこで鶴岡地域の場合は受け入れていただけるのかということです。

○ **阿部真一地域振興課長** 今、提言に向けてご協議いただいておりますが、12月16日に鶴岡地域審議会の会長さんと、他の5地域の審議会の会長さんから一緒に市長へご提出いただきます。その後の対応としましては、これからの地域振興計画や予算、また熟度を高めるため少し時間をいただくといったところもありますが、そのような形で鶴岡市全体反映していくことで考えております。

○ **早坂剛会長** 平成21年から25年まで実施してきましたが、これを踏まえて26年から30年までを総合計画審議会で見直していくということですが、これを見ている限り文書だけです。例えばコミュニティや教育、何にしてもそうですが、人口がこの5年間でどれ位になったのか。これからの26年から30年までの5年は地域ごとに、大体これぐらいの人口になるだろうと予想される前提の資料がありません。この間の総合計画審議会の時に申し上げたのですが、そのような人口の資料がないと、学校に関して言えば、実際の学校の新築や統合の問題が進まないと思います。あまりにも綺麗ごとの文書だけで終りそうな感じがしますので、具体的な数値目標を私たちがつくっていかねばならないかと思いますがいかがですか。

○ **富樫泰企画調整課長** 人口の問題ですが、平成22年の国勢調査の大変厳しい結果が明らかになっています。これを受けた施策等がこの見直しの背景になっております。それから、人口推計の方法がいろいろありますが、私どもは国立社会保障・人口問題研究所で出している2040年で9万4千人という数字がございますが、これを基本に仕事を進めているところです。そして12月の総合計画審議会には多少ですが数字は出していこうかと思っておりますが、人口フレームの見直しをする必要があるのではないかという話だと思います。基本計画の中では、平成30年に13万2千人という議決をいただいた人口があります。今のところ多少上回っておりますが、現在では平成30年に13万2千という数字は達成出来ないだろうと思われれます。

では、議決をいただいたその数字をどうするのかというところが、私どもの研究がなかなかないというのが現実でございます。かつて人口減少については自然増が基本的にあり、社会減が非常に大きくて鶴岡市の人口が減っていた。平成2年や7年ぐらいまでの国勢調査はその傾向でしたが、そこから先が、ある程度社会減がかなり少なくなって止まりました。社会減は工業団地の企業や研究所などにより、年間300人位までかなり縮まったのですが、少子高齢化が止まらなくて人口減少が進む。工業団地を作って人口を増やしましょうという作文は、どうも成り立たない状況にあります。これは鶴岡だけでなく、全国の自治体が非常に悩んでいるところです。その分、自然増をどのように図るかということで、子どもの医療や保育園を無料化にすればどのくらい人口が増えるのか、増えそうだというデータはいろいろあって、合計特殊出生率が上がった自治体の例もありますが、私どもが計算し

てお示しできる確たるバグボーンのある数字が、なかなか得られず苦慮しているところで、どこの自治体も同じかと思えます。ですから13万2千人という議決したものを、否定するほどの材料が出せるのかというと、なかなか出せない。ただ2040年の9万4千人という数字を念頭において、平成31年に新しい計画を本格的に作らなければならないのですが、それに向けてどう勉強していくかということが、私ども企画部門では大きな宿題になっていると思えます。他の機関で出している数字を参考としていることはお許しいただき、今後鶴岡の人口はどうするのかについては、次期計画に向けて研究を深めてまいりたいと存じます。

○ **早坂剛会長** 確かに人口は右肩上がりでなく、右肩下がりという状況になっていくなかで、どのようになるかと予測しながら計画をつくって実施しないと、各分野にわたりものすごく影響があると思えます。今あまり正確な予測は出来ないのは分かりますが、ある程度予測をして、このようになるのではないかと想定しながら、この5年間にしていかないと、ものすごくかけ離れたものになると思えます。特にハードについては必要でないものを作ってしまうかもしれない。そういうことを考えると、数値目標をどのようにするかということは、危険性はあると思えますし実情は分かりますが、その数値目標をある程度つくと、漠然と言葉だけではこれから対応は出来ないと思えますので、難しいかもしれませんが是非考慮していただければと思えます。

○ **稲泉真彦委員** 資料2の1ページ2番目に本市をとりまく状況として、少子高齢化から地球環境まで4つありますが、いずれもマイナスのイメージです。確かに市の職員としては危機感を持って取り組んでいるとは思いますが、本市で成績が上がっているプラスのイメージも入れないと、市職員や我々審議会の委員だけが見るだけではなく、市民の皆さんが見ます。例えば親がどうもここは希望がないようだから、子どもに東京へ就職したほうがいいのではないかといったイメージは作りたくないと思えます。市民のイメージを支えるためにもプラスのイメージを加えるべきで、食文化のことで市が実績を上げているようなものを加えてはどうかと思えます。

それから、資料3の5ページで、雇用の創出に関連して、企業誘致という言葉在市ではここ最近使っていないように思いますが、やはり企業の誘致は大事で誘致する時、国内の場合、優秀な人材や教育のいいところにしか企業が来ないということも言われているので、産業振興のところには是非企業誘致のことを入れて欲しいです。私は2つの新聞を読んでいます、この厳しい中でも各自治体が企業誘致に成功したことがいろいろ出ています。これは鶴岡市としても、もっと力を入れていいのではないかと。先日高校の校長先生から高校生の就職について聞いたところ、良くなっているとのこと。例えば百数十人の地元希望の内、ある学校では残り10名、ある学校では残り数名ぐらいたと言っていました、今年の場合はいくらも厳しい中で非常に良くなっています。ただその中で専門学校への進学が減って地元就職に変わってきている。やはり地元で就職したい、させたいという気持ち強いのかと思えますので、是非総合計画の中でも、この言葉をもっと大事にして、市だけでなく産業界も市民皆も努力していく必要があるのではないかと。思えます。

○ **早坂剛会長** 鶴岡市総合計画後期基本計画策定についてはこれで終らせていただきます。続いて協議の鶴岡地域審議会提言案に入ります。

4 協議 (午後2時30分)

(1) 鶴岡地域審議会の提言案について

テーマ1「魅力ある地域づくりの推進」(説明:阿部真一地域振興課長)

○ 早坂剛会長 ここでは一旦テーマ1についてご意見聞いてから、テーマ2に入ることにします。テーマ1についてご説明がありましたがいかがでしょうか。

○ 本間仁一委員 コミュニティ分科会で話し合われたことが、上手くまとめたと感じます。ただ一つだけ、地域の情報発信の強化というところで、市民力といいますか、市民の皆様の力を借りた情報の発信というものも必要なかと思いました。今はインターネットの時代ということで、どうしてもそのような方向になりがちになるわけですが、私は市民の力というものは非常に大きいものがあると捉えております。例えば、遠くにいる親戚に連絡してもらおうということでも伝わっていきますので、もっと地域に根ざした情報力を活用していけばいいのかと感じました。空き家の問題も、例えば今すぐ使える空き家が何軒ぐらいある、あるいは少し手を加えれば使えるものがこのぐらいあるというような情報を、市民の方にもっと、知らせていただければ、人づてに伝えていく形も大切なのかと考えています。

○ 早坂剛会長 なかなかいいアイデアですね。

○ 丸山絢子委員 情報発信のところで、本間委員がおっしゃったところですが、市のホームページは一方通行でフェイスブックが双方向です。少し文章上ごちゃ混ぜになっていると感じられます。まず、市のホームページにフェイスブック等を開設という表現は、ソーシャルメディアなどをある程度認識している者からする違和感がありますので、確認して下さい。

それから、水害やゲリラ豪雨の状況などがという部分も、市のホームページは市の職員が庁舎にいれば、直ぐにその情報を発信できると思いますが、例えば、フェイスブックなどのSNSを使うことで、職員の方が自宅から役所に出勤する途中でも、状況が分かればすぐに発信できるとか、逆に市民が家の近くで水が溢れてきた、あるいは水が溢れて道路が冠水しているから通れないといった情報が、フェイスブックを使うと情報が双方向になるというところが、フェイスブックの良さとしてあるので、もう少し具体的に分かりやすく書かないと、提言書を市民の方が見た時に、分からないと思いますので確認していただきたいと思います。

それから、インターネットを利用しない人を意識した情報発信ということで、今の高齢者は携帯を持っている方が多く、メールだったら見られるまたはメールを発信していると思うので、携帯を使って情報が入手できる枠組みを作るとか、そこからもう少し進めて、今はフェイスブックの登録だけは出来るという状況もあるので、多くの方から登録してもらえようような講座を開催して、積極的に関わっていただけるような事業をしてもいいのではないかと思います。具体的な方策に入れるかどうかは別にして、意見としての一つとして言いました。

○ 茅野進委員 1ページでコミュニティの人口減少は高齢化とともに、マイナス面かも知れませんが、経済的な不安や不況を含めて、それがイコール地域のつながりや生活力のなさとともに、子育て全部にも関わるものですから、経済的不安不況という言葉も入れたほうがいいのではないかと考えました。2ページの具体的方策のところ、学区を越えたとあります

が、地区内の連携、協働が大事で、学区、地区の中でお互いの諸団体の横の連携、協働ということ、もう少し取り入れていただければと思います。

それから、3ページの中段ですが、中学生が高校などの進学などで難しい年代であるのは、分かりますが、専門的な方も含めてもう少し先生が多ければ、とありますが、一般の先生のことなのか、それとも地域では退職した人などがおりますので、そういう方々を取り入れていくことなのか、よく分かりませんでした。同じく3ページの課題解決に向けた提言で、致道館教育の伝統と併せてとありますが、致道館教育は大事ですが、愛郷心や伝統文化等ということで地域の良さがもっとあるのではないかと思います。

4ページの高齢者の生きがいとしては、世代交流を図ることについて、例えば小学校での福祉学習など取り入れていただければと思いました。

○ 齋藤春子委員 最初のところに、活力ある地域としての町内会や住民会と書いてありますが、最近あちらこちらで地域づくりという形で、例えば、三瀬だと山に関係してそれぞれの分野から10人位集まり、これからどのように山を見直していくかということで、役員に就いた人だけでなく、一般の人も地域づくりの活性化のために随分動いています。コミュニティや地域の活性化というのは、役員のことが考えられやすいので、そうでないこともこの中に強調した形での記述であって欲しいと思いました。

それから先ほど致道館教育の話がありましたが、これだけでないということをもっと考えていただきたいと思います。

○ 竹内峰子委員 いろいろなものを載せたいということは分かるのですが、ここでいう地域コミュニティについて、今話を聞いていく中で少し違うのかと感じています。今までの発言に反対というわけではないのですが、何と言えがいいのでしょうか。あまりにも内容が多岐に渡っているので、難しいのかと思いました。

○ 山田登分科会長 皆さんが活発に議論されて、事務局でこのようにまとめてくださったということで目を通してきましたが、前回の話し合いで、地域づくりの中で地域力を高めるには、そこに住んでいる人たちの健康状態を良くする。それには、もっと運動やスポーツを盛んにすべきだということで、体力づくりも大事にしなければならないという発言がありましたが、スポーツや体力づくりに関わる言葉は、この文書の中に微かに書かれてはいますが、このような書き方で良かったのか、もう少し強調する意味で1つ項目を起こして提言したほうがいいのではないかと感じました。その辺のことについて、もう一度ご発言をいただければと思います。各町内では、大人も交えて子ども達が、町内の何々大会ということで、実際にやっておって、人との交流もスポーツ活動を通して盛んに行っていますが、そういったことは、これからも大事にしていかなければならないと思います。

また、今年度チャレンジデーというのが突然出てきて、ちょうど町内会連合会の総会の日が、その日でしたので、総会の中で出席者がラジオ体操をして、それで参加したという経過もありました。上から命令的に言われても賛成出来ないという方もおりましたので、そういったことも広めていく必要があるのではないかとこの気持ちもございました。

それから、保育園という言葉が出てきていますが、就学前教育では、もう一つ幼稚園があります。幼稚園と保育園では内容が若干違うのですが、やはり幼稚園、保育園と2つの言葉

があったほうがいいのかと思いますので、幼稚園を追加していただければと思います。

○ 稲泉眞彦委員 初めに文章全体について、時間をかけて多くの人の意見を集約してまとめたために、全体として文書が非常に読みにくくなっていると感じます。基本的には市民から、少なくとも町内会の役員の人たちからは読んでもらうことを考えると、もう少し読みやすい文章にしたほうがいいのかと思います。4行ぐらいにわたって文章が途切れないようなものがあります。以前新聞社の方から、横割りの縦で3行以上になるような文章は、普通の人は直ぐには理解出来ないなので、読んでもらいたい、理解してもらいたければ3行ぐらいでと言われたことがあります。文章が長いと1回読み終わってから、もう1回読み返さないと文意が分からない。読んで理解しやすい文書にするため、削除するところは削除したほうがいいのかと思いました。テーマやタイトルで、子育てにやさしいとか、子育てが安心して行えるとありますが、例えばカッコで括って、子育てしやすいまち鶴岡をめざしますといった書き方にすると、次の文章が読みやすくなると思います。

それから、3ページの下の方で、行政、市民のところで、市が率先して管理職への女性の登用を増やすとありますが、近年、審議会などの委員も女性の登用を積極的にしようとしていると思いますので、意見を聞く部分をもっと増やすということにしたほうがいいのかと思います。保育園や幼稚園に関しては、管轄が厚生労働省と文部省と別々ですが、鶴岡市では一元化する方向で取組んでいる、または既に取組んでいるのではないかと理解していますので、ここに加えるのであれば、例えば、児童館について、他市では民間の保育園が児童館も運営していて大変人気があるということがありますから、民間の力を活用していくという方向が入っているのではないかと思います。ここに書いてある内容は、鶴岡市はかなり実現している部分があるのではないかと思います。

それから、山田委員からスポーツの話がありましたが、ここには高齢者のことで転倒防止、予防運動と書いていますが、高齢者といっても個人差は非常に大きいし、高齢者の定義はともかく、元気に運動している60歳や65歳の方が鶴岡は非常に多くなっています。例えば小真木原運動公園では、歩く人などが早朝、日中、夜と、大変増えてきていると私どもは認識しています。よって高齢者が元気に活動できるように、にこふるやコミセンなどを利用しながら、転倒や転倒防止の運動をするなら、コミセンまで来られるような人でない人が問題で、例えば、町内会で取組みをするのは、非常に効果があるのではないかと思います。先ほどチャレンジデーの話がありましたが、町内会の総会や防災訓練などでチャレンジデーの取組みをする。後期高齢者や体力が低下している人たちは、それを契機に家でやっていますという話も聞きます。体力の維持ということで、にこふるやコミセン、あるいは山形県に総合型スポーツクラブが50いくつかある中で鶴岡には10あります。そういう総合型スポーツクラブ、また市の体育施設が各地域にもあるので、にこふる、コミセン、総合型スポーツクラブ、市の体育施設等を活用しながら、体力づくりや健康づくりに努めるはどうでしょうか。

それから、チャレンジデーで言えば来年もやると聞いています。今年は木更津から大差で負けましたが、私どもはあの短期間であの日に鶴岡市民の20パーセント以上が、運動したというのは驚きで、もっと低率なのだろうと思っていました。高齢者が地域づくりの中核になっているというのが現状ですから、チャレンジデーを契機に、先ほど言いました町内会や防災訓練、あるいはいろいろな機会健康づくりを考えるというのはどうでしょうか。

最後に若者のことで、この間羽黒高校のテニス部が団体で全国大会を制覇しました。山形

県で一度もなかったので地域としては偉業です。それから水泳では大学生でオリンピックの候補選手になろうとしていますし、高校生も近い状況になってきている。そういう意味でも市民の方から年配の方も含めて競技スポーツを支援するというところで、市の意欲を高めていくというのは非常に重要なのではないかと。体育協会また市のスポーツ後援会として、市からの補助金をもらっていますが、これらの選手に対して支えていくような市にしたいものだと思って、今下準備をしている状況にあります。

○ **後藤輝夫委員** 合併による東北一広域な鶴岡市、そして少子高齢化の進行で人口は減少し、超高齢社会の中に入っていくなどが前提にある中で、議論した内容をつなぎ合わせてよくまとめたと思います。また、それを提示すればいろいろな意見をいただいて、事務局は大変なご苦労だと思っています。

私は1ページ目の1の2行目、地域の担い手不足や役員等の固定化、それから同じページの一番下に、地域で行事等をする時に役員だけでなく地域のいろいろな人が、とあることを受けると、次に4ページ、5ページに、安心安全に暮らせる魅力、高齢者が生きがいをもってとありますが、課題解決に向けた提言の中で、やはり個人情報や云々となってくると、私は福祉とか、連携や連帯といった場合に、本当に高齢者は単に保護されたり守られるという、受身の立場でいいのかということが高齢者でありながら思います。高齢者自身の意識の改革や行動を促すには、先ほど稲泉委員からありましたが、若いも若きもやはり身心健康でなければならないことが前提にあると思います。

例えば、避難訓練をやっても玄関の先までは出るがあとは出ない。全国どこでも大きい災害で犠牲になっているのは年寄りであり、かばう若い人たちであるということから考えると、年齢には関係なく、その住民の連帯意識を強調していくことによって、住みよいところだということになればならない。最後に、権利としての平等をいうだけでなく、行動の中に協力・協調して、そして自主的、自発的な行動をもって、市民が鶴岡はこういうまちだという思いを描いていかなければならないと思います。

○ **竹田理英委員** よくまとめられてすばらしいと思いました。この具体的方策がどんどんと進んで、スピード感のある行政、鶴岡市役所になって欲しいと思います。

○ **阿部真一地域振興課長** いろいろご指摘ご意見をいただきましたところを、もう一度文書を整理しながら記述に努めていきたいと思っています。

○ **早坂剛会長** 事務局の取りまとめは少し大変そうですが、よろしくお願いします。それではテーマ2に入ります。

テーマ2 「地域経済や産業の活力のため、定住・移住人口の拡大に向けて」

(説明：阿部真一地域振興課長)

○ **早坂剛会長** ご意見等お願いします。

○ **土岐純一委員** 今課題でありました生活面での定住、それから働く場としての定住ということで、両方から課題の中で整理されているのではないかと考えています。そのような中で、具体的な方策として、いろいろ整理されておりますので、このような形でいいのではないかと考えました。やはり、いかに働き場が鶴岡にあるかということが、大変重要な課題でないかと思えます。そういう面で雇用の拡大の創出ということが、一番の課題の中でうたわれていますので、その中に整理されているということでもあります。

ただ、もう少し中山間地域の関係で、空き家と遊休農地の活用ということがよく言われているので分かりますが、これから中山間地にUターンやIターンで住もうとして考えている方というのは、ごく限られている方々ではないかと思えます。都会生活の方がいろいろな環境の中から選んでということになれば当然分かるのですが、ただ、私どもが住んでいる中で、地元の人からみると、果たして生活が出来るのかどうかということが頭の隅をよぎるのですが、その辺のところを農地と環境という面で、どのような活用が出来るかということは、これは森林組合もそうですし、農林業関係団体の中で考えていかなければならない一つの課題だと思えます。

今日のまとめに対して、どうのこうのではないのですが、具体的などころとなりますと、かなり難しいのかなということを感じました。

○ **三浦惇委員** まとめとしては非常に立派だと思えます。ただ、現状の社会現象を見た場合、鶴岡市の就業に対する若年層の定着率がどうなっているのか。ここにはありませんが、特に3年未満の離職率は非常に高いという話も聞いております。その原因が何かというと、私どもが見る限りでは、やはり安定した職場環境や暮しやすい職場環境というものがどうなっているかということが、全体に対する影響力として大きく出ているのではないかと考えます。基本的なことなので、若干ふれておく必要があるのではないかと考えております。

それから、もう一つは交流人口の関係では受け入れ体制の整備、全体的に都会から山村や農村地域に來たいという方がいた場合、こちらが受け入れる体制が整備できているかということが、大きな課題になってくると思えます。企業誘致の場合には、いろいろな財政援助を含めて、生活援助まではどうなのでしょう。そういうことをいろいろやっているところもあると聞いています。例えば、空き家には低年齢提供するとか、農業をやりたい方には営農指導をするとか、生活援助まで私は考えておりませんが、そういう企業誘致と同じような側面から行政がやるということも必要ではないかと考えております。

それからもう一つ観光関係から言えば、交流人口が増えれば、あらゆる面で影響力が大きい産業であるというのは言われておりますから、特色もあり非常にいい条件ですし、県内でも最高の観光入込人口ですから、更に一歩進めた特色やいろいろな企画を情報発信を含めて、これからの大きな課題になってくるのではないかと考えています。

○ **今間智寛委員** 非常によくまとまっていると思えますが、課題や提言といろいろ出ていますが、どれか一つでもいいから日本一になるようなものを、この鶴岡市でも目標に掲げてやっていったらいいのではないかと考えました。テーマ1で、子育てしやすい鶴岡を目標に掲げてとありますが、実際のその施策として書いてある部分が、どこの自治体でもやっているようなことが書いてあるだけで、もう少し本気になって日本一を取るような、これは鶴岡は絶対どこにも負けませんというようなことを提言してやっていけば、それに対して、例え

ば、就業でも人口の増加でも、付随して増えてくるのではないかと思います。

○ **丸山絢子委員** この提言書の構成で、現状と課題、課題解決に向けた提言と分けてありますが、特にテーマ2の部分が分けきれていないと思います。多分まとめるのがすごく難しかったのだらうと思いますが、現状と課題に提言が混ざっているのではないかと感じた部分があります。それは、8ページの3のところ、例えば郊外地では空き家や空き地が問題になっている、市街地でも多くなっている。一方での後を読んでいくと、5行目あたりから、空き家との有効活用することの検討も必要でないかと考えると、まさにこれが提言なのではないかと思いました。現状と課題は、郊外地では空き家や空き地が問題になっている、市街地でも空き家や空き地が多くなってきている。一方で若い世代、考えている人、戻ってくる場合は、家探し、居住スペースについて不安がある、というように端的でいいと思いました。中山間地域には空き家とともに遊休農地もある。それが結果として、提言では、遊休農地と空き家を活用した、活用した形を取るように、現状と課題をしっかりと読みやすいと思いました。

7ページに戻って2の現状と課題の2段目あたりから、ここに住んでいると当たり前だと思っていることが、というところからの5、6行が分かりにくい文章だと思いました。ここは、多分鶴岡の良さが住んでいる人には当たり前のことが、違う地域から来た人は良さを気付いていたとか、逆に足りない部分を指摘してもらって、そういう双方向性がいいことと、それとは別に、鶴岡の強みをもって外に発信してPRしていこうという、その二つの意見をまとめてしまったために、分かりにくくしていると感じました。思い切って分けるか、あるいは削除してもいいと思います。そのほうが後の具体的な方策につながると思います。

最後に7ページの最後からの3行ですが、いろいろ情報をもっている市と連携しながら、一緒に進めるとありますが、市長に提言するのに、市と連携するのに誰がという主語がありません。ここは市民や企業民間ベースの人と市と一緒に連携しながら、お互いの情報を持ち寄って、連携して進めたいというのが意見であったと思うので、その部分を上手く表現していただけたらと思いました。

○ **菅隆委員** 私からは提言書として提出した後のことについて申し上げます。具体的方策に、仕組みを検討する、推進する、仕組みづくりをする、人を育てるなど、やっていかなければならないことが書いてありますが、これをただ既存の担当課に「明日からやってください」と振り分けるものではないと思います。この場で議論したことがある一定の部分は、もう短期的にしないといけないのだから、プロジェクトチームとか、地域振興課の中に担当専属の室をつくるといったところまで踏み込んでいかないと、緊急な課題を解決するというところまではいかないと考えます。この審議会の中から打ち出していくことが、市の方にこれが提案されました、担当課でそれぞれ頑張ってくださいで終わってしまうと、他の地域でやっていることと同じになります。先ほどのお話しにもありました、確かにどこの地域でも同じ課題持っているはずですから、そこから一歩進めるには、もう少し踏み込んでいってもらえるような体制を是非作ってください、というところまで、この提言の内容を進める部分を加えるということを提言すべきではないだらうかと感じました。

あとは、いろいろな産業界や地域の代表の方もいらっしゃるんで、今後これを推進していくためのプラットフォームとしての組織体を是非継続的にしていかないと、ここで議論した

ことがどのように動いているのかチェックしなければならないと思いますので、皆さん委員としてご意見を言っていただいていますし、自分の所属する部分での、いろいろな課題をこの場で解決しようとご意見を出しているのですから、そういうところも含めて、提言書の後ろでもいいので書いていただけるといいのではないかと思います。

○ **早坂剛会長** その中で一つぐらい具体的に書いて欲しいというところはありますか。

○ **菅隆委員** コーディネーターや人材を育成すると書いてありますが、コーディネーターの役割を、例えば市の担当部署として位置づける、あるいは、民間と一体となったプロジェクトチームを作りますということよりも、進めていく上では、内容によっては担当課に振るものもあるかもしれませんが、原則、担当課に振らないということを入れたらいいのではないかと思います。

○ **菅原衛委員** コミュニティ分科会ですが、産業経済分科会は難しいテーマだと感じました。内容について、課題、提言、具体策とは言いながら、なかなか踏み込んだところまでは書きにくいのかと感じております。その中で7ページの10行目あたりから、同窓会や同級会などはUターンなどのきっかけづくりになるので、というところは、是非市から支援をしていただきたいと思います。それから空き家等の利活用ですが、10年近く前から、このような課題と方策提言をいろいろな場面で見ますが、実際全く変わっていません。仕事の関係でたまに相談を受けますので、現状もある程度は知っているのですが、絵に描いた餅どころか、そういう組織をつくれればいいのだろうという感じで、なかなか難しいこと要素が多いのは分かるのですが、もう少し踏み込んで、各分野の担当の方や民間で関わった方などから、ご苦労されている実情などを報告していただくと糸口がみえるのではないかと思います。

○ **今野毅分科会長** いろいろなご意見がありましたが、正直テーマがあまりにも大きすぎたのではないかと感じておりました。人口が減っていく要因はたった一つや二つではなくいろいろあるだけに、どのように増やしていくかというところは、非常に難しい問題だと捉えながら、皆さんのご意見を引き出してまいりました。その中でもいろいろなアイデアなり思いを集約していただいたことには、事務方には感謝申し上げます。

先ほどのコミュニティのところでも思いましたが、本来であれば、役所やまたは関係団体がすべきことが、もっともったあつたのではないかと感じました。これは産業経済にも共通することなのですが、やはり人口を増やすということは、魅力や職場などいろいろなことが包括されていなければ、人は住もうとは思わないという意味では、各団体がもっとやるべきこと、主体的に取り組むべきことを、もう少し解析しながら取り組むべき方法論もあるのではないかと思います。しかし、いろいろな情報や鶴岡の良さをまず発信することがなければ、鶴岡をいろいろな意味で出ていった方々も鶴岡には戻ろうとは思わないでしょうし、そういった人たちがさえ戻れないところに、鶴岡に魅力を感じて住んでみよう。ましてや所帯を持ってみようと思うのは、なかなか難しいのではないかと思います。

私は農協の代表ですが、農業の部分で後継者や担い手、新しい人たちも含めて、どういうスタイルで農業の魅力を発信し訴えていくかということ、これからしなければならないし

必要だと思っています。各産業の方々、JCの方々、観光協会も含めてですが、本当に自分たちがやるべきことを実行していくことが、この鶴岡に必要でありそれが鶴岡の市民力や産業力となり、そうしていくことで何かひとつでもトップになれば、鶴岡というものが世間に認知されるのではないかと常々感じているところです。

そういう意味で、人と人とのコミュニケーションのスタイルが、フェイスブックにより変わってきていると感じています。フェイスブックで鶴岡の中の、自分たちのいろいろなコミュニケーションや楽しみ、また頑張っていることを出していく。議論の最後の段階で、年齢層も様々ですがもう少し市民の皆さんが、それぞれの会社や産業、仲間、食文化が素晴らしいことなどを発信することに取り組む。そして鶴岡10何万人皆で発信していこうとなれば、ソーシャルメディアは広がるのではないかと感じているところです。

コミュニティの部分もそういうことだと思います。皆がやれるものでないかもしれませんが、出来ないところは誰かが助けたり、関わりながらやっていけば、すごく住みやすくコミュニティが充実している地域であるとなり、また、産業界もそれぞれのジャンルの中で發揮していけば、面白いところといったうたい文句になるだろうと思います。来年はDCがありますので、この地域の魅力を皆が発信しようよという運動にしていけば、少しいいものが結果として残るのではないかと感じたところです。

○ 早坂剛会長 皆さんから貴重なご意見いただきましてありがとうございました。私から、テーマ2の議論の中で、他から連れて来るだけではなくて、後継者や若者の定着、それから大学などで外に出て行った人の受け入れといった話がありました。会議所でも、高校生の若者を地元の企業で働いてもらいたいということで、2年前から一生懸命取り組んでおり、地元企業の社長さん達にお願いをいたしまして、景気だけでなく、若者を受け入れる企業が大分増えてきたということがあり、もっと展開していけば、もっと若者が定着してくれるのではないかと思います。それから、後継者のことで、親が自分の仕事について継がなくていいと言うケースがあるかと思いますが、それをどのように改善していけばいいのか、親が自信を持って息子さんや娘さんに後継者としてやっていけることを、進められるような提案があってもいいのではないかと思います。では、事務局には今日の話のまとめをよろしくお願いします。

5 その他 なし

6 閉 会 (午後4時02分) (阿部真一地域振興課長)